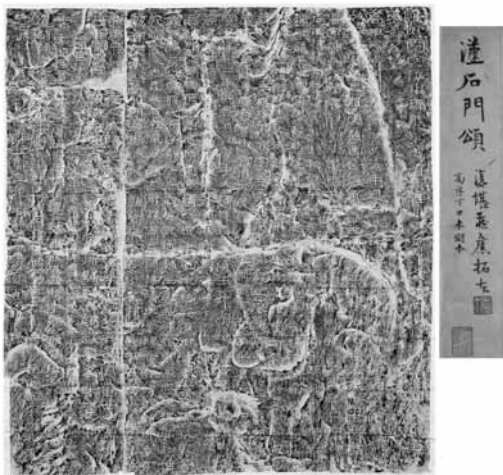


主圖版・石門頌・旧拓整本「匪石厥章 龍門君其」

「落ち穂拾い記」⑦⑧

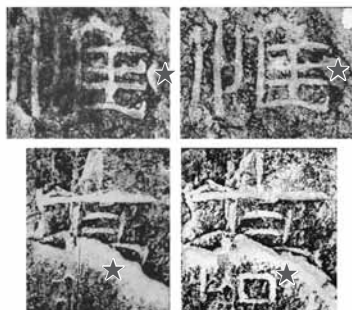
「石門頌」旧拓整本 漢・建和2年(148)

図①



図②

旧拓 近拓



図③

碑面写真 近拓 旧拓



図④

法書選本

近拓

旧拓



荒削りで、伸びやかな書風の石門頌は、金石碑帖の手下として現在でも人気のある古典であろう。同じ漢中地域にある「開通褒斜道刻石」は、石質が異なり、風化により石質がもろくなり、碑面が破損して新旧拓本の差が、大変に激しいが、石門頌の摩崖は、石質が優れ、文字の破損は、非常に少ない。それ故に原刻の拓本を割合多く見ることが出来る。前回示したのは、清朝後期の精拓本である。数十年前に、清末民国期から現代に活躍し、章草体を善くした書法家・羅覆堪(1872~1955)旧蔵の整旧拓本を得た(図①・右頁に後半の一部を原寸で示した)。碑額の伸びやかな隸書の文字はないが、やや淡い丁寧な拓で拓紙の破損もない。以前、石門頌の拓本の新旧を仔細に調べた。古くから石門頌拓の新旧の大きな区別は、一行目の巻頭の「惟」字と巻末から二行目の「高」字にあると言えられている。この二字の相違をわかりやすく図②で示した。「惟」字の「佳」の二番目の横画の末が破損しているかいないか。また「高」字の下「口」の有無である(★印で示した)。高字の「口」がない方が古く、拓出されているほうが、後の拓とされている。(旧拓に「口」部分が拓出されていないのは、刻されていたが、「口」部分が少し低い位置に刻されているので気がつかずに拓されていたとか、また後に補刻されたなどの説がある。)各種の資料をもとに全体を丁寧に比較しているうちに、記録されていない別の新旧の根拠となる部分を見いだした。八行目の末の「故司」二字である。図③に原石の写真と新旧二種の拓本を示した。字画は同じであるが、二字の間にある★印の盛り上がった石皮部分が、古い拓では残されているが、近拓や現在の碑面写真では、この石皮が破損して平らになっている。この部分を根拠に、各種の石門頌拓本資料を調べると、「中国法書選」所収本は、古くからの旧拓の根拠とされる「惟」字や「高」字の下の「口」は、旧拓の状態を示しているが、「故司」二字部分は、近拓の状態を示し、矛盾している。「惟」字や「高」字の下の「口」部分を仔細に調べると加工の痕跡を確認できる。このように趙之謙や張廷齋などの金石名家旧蔵の善本とされる拓が、新旧の根拠となる文字を塗墨して旧拓に偽装されたものであることが知られる(図④)。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)



**(公財)書道芸術院
令和8年度第1回理事会**

5月10日事務所にて、令和8年度の第1回通常理事会が開かれました。午前中には監事による令和7年度の収支決算の監査が行われました。

- 議事
- 1) 令和7年度公益財団法人書道芸術院事業報告の承認について
 - 2) 令和7年度公益財団法人書道芸術院収支決算の承認について

監査報告

- 3) 定時評議員会の招集の決定について

- 審議事項
- ① 第80回記念書道芸術院展関係人事について 特別推薦、昇格者、退会者、逝去者ほか
 - ② 第80回記念書道芸術院展、第78回全国学生書道展部長の決定について
 - ③ 篆刻・刻字部への出品、学生展部門新設について

報告事項

- ① 令和8年度秋季展選考委員について
- ② 書道芸術院現代詩文書展について
- ③ 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告

今年度は財団の役員改選の年にあたり、

この理事会をもってご退任の先生方がいます。新役員は6月の評議員会にて決定します。

また、8年度は、書道芸術院が80歳を迎えるにあたって、来年2月の記念展を前に記念行事として10月の海外展（ベルギー・ブリュッセル）や、11月23日の創立記念日に島谷弘幸先生による記念講演などが予定されています。長い歴史を振り返り、充実した院として新しい時代を前向きに歩いていきたいと思えます。

**(公社)全日本書道連盟
第196回理事会開催**

5月14日、上野精養軒にて令和8年度初めての理事会が開かれました。

- 議事
1. 書写・書道教育推進協議会ならびに日本ユネスコ登録推進協議会の活動状況について
 2. 令和7年度助けあい募金の報告
 3. 本日の理事会ならびに令和8年度総会（6月4日）での審議事項について
- 議決事項
- ・ 令和7年度事業報告ならびに決算の承認
 - ・ 「役員報酬ならびに費用に関する規程」改正
4. 令和8年度総会の開催、進行について
 5. 令和8年度書写書道教育講演会について（6月4日総会終了後）
 6. 令和8年度夏期書道大学講座について（8月7～9日開催予定）

- 講師
- 8月7日 か な 杉浦華柱
 - 8月8日 篆 書 大崎雨萩
 - 8月8日 隸 書 赤平泰処
 - 8月9日 楷 書 加藤 裕
 - 8月9日 行草書 江原見山
 - 8月9日 行草書 松村博峰
7. その他

第77回毎日書道展がスタート

第77回展の出品受付が5月11～13日、竹橋の毎日ホールで始まりました。

5月19日、部門によって作品整理・審査準備が行われ、20～24日審査が行われました。今回展から、鑑別・審査は5月に一本化され、審査も、部門によって2日程が異なることになりました。（刻字部のみ6月に行う）

- 6月27日会員賞選考会
 - 6月28日文部科学大臣賞選考会
 - 7月19日表彰式、祝賀懇親会
- 東京展のイベントとしては、昨年同様会員賞受賞者による席上揮毫会、毎日賞受賞作品の解説会や、毎日書道会理事監事によるキャラリートーク、「書の甲子園」作品展示に伴う連携企画などとなります。（日程確認のこと）

**(一財)毎日書道会
理事総務会開催**

- 議事
1. 令和7年度一般財団法人毎日書道会の決算の件
 2. 第77回毎日書道展の件

第77回毎日書道展出品状況 2026.5.29現在

	漢Ⅰ	漢Ⅱ	かⅠ	かⅡ	近詩	大字	篆刻	刻字	前衛	計
公募	2,634	4,221	919	1,051	3,564	1,292	172	399	658	14,910
会友	1,323	935	185	630	1,307	398	55	39	267	5,139
U23	353	518	97	123	513	208	64	28	65	1,969
小計	4,310	5,674	1,201	1,804	5,384	1,898	291	466	990	22,018
77回展計		9,984		3,005	5,384	1,898	291	466	990	22,018
76回展		10,028		3,098	5,464	1,840	279	524	1,015	22,248

院(全)	376		239	373	165	0	13	323	1,489
76回展	357		246	398	164	1	16	324	1,506

3. 「2027新春展」の件
 4. 「第35回国際高校生選抜書展」の件
 5. その他
- 日程他
開催予定(東京展は除く)
- 四国展 8月19～23日
 - 東海展 8月25～30日
 - 中国展 8月25～30日
 - 関西展 8月26～30日
 - 東北仙台展 9月11～16日
 - 北海道展 9月23～27日
 - 東北山形展 10月28～11月1日
 - 九州展 11月10～11月15日

漢字書基礎基本講座 (25)

種谷 萬城

篆書 5 呉昌碩臨石鼓文

篆書には、これまで本講座で取り上げたように小篆、金文、甲骨文、簡牘等の種類がある。これらは殷、西周、春秋戦国、秦などの文物で、破損や摩滅などがあり、初学者が直接に臨書し学習するには、聊か困難もある。そこで、篆書の研究が盛んであった清朝の篆書の名手達の作品を参考にして学ぶことが良い方法になる。清末の呉昌碩(1844~1927)は、詩・篆刻・書・画に精通した清代最後の文人と言われる。書は石鼓文を生涯に亘って臨書し、多くの臨書作品がある。また、瑯邪台刻石、権量銘、張遷碑、散氏盤、祀三公山碑などの臨書作品も残した。呉昌碩は篆書古典を幅広く学び、さらに、呉讓之、楊沂孫、呉大澂、楊岷の影響をうけ、静的で無機質な石鼓文を基に、筆意と躍動感を加え、渾厚雄偉な、魅力的で独自の作風の篆書を創り上げた。篆書を学ぶに際し、呉昌碩や、金石文を広範に学んだ清朝の碑学派の書人達の毛筆で書かれた筆意のある篆書は、大いに学びたい。

① 呉昌碩臨石鼓文「吾馬既同」



② 呉昌碩臨石鼓文「吾車」



③ 石鼓文拓本「吾車」



④ 呉昌碩臨石鼓文の臨書「吾馬既同」



⑤ 呉昌碩臨石鼓文筆法解説



⑥ 呉昌碩臨石鼓文の倣書「天馬行空」



※ユーチューブ「筆のサロン」に臨書と倣書の関連動画画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。



筆のサロン
QRコード

基礎基本講座

ペン字基礎基本講座 (5)

川村 美泉

前回に引き続き、行書のポイント、⑥点画の方向や省略、⑦筆順等をテーマにお話をします。

行書では、点画の方向を変えて点や線のつながりをつけやすくします。(一筆脈)

治演

また、一定のルールがありますが、点画を省略して、書く速度をアップさせることができます。そのため、実用の場面で使われることが多い書体です。

貴夢

次に、楷書と違い、筆順を変えてよい場合があります。点画間のつながりを重視するためです。

至至

また、懐ろを広く豊かに見せるため、接する部分を離して隙間を作ることがあります。文字に明るさやのびやかさも生まれます。

向

行書では、特にペンの弾力を生かし、のびやかに書きましょう。行書を書き始めると、かなの単体や古筆の学習もしなければ！と思いが始まります。リズム、流れ、抑揚など共通点がたくさんありますね。ぜひ、かなの勉強もされながら学習を進めてください。

書道芸術院 令和の群像 (2026)



福田玉翠 (群馬)

「出会いと絆」

私が初めて筆を持ったのは小学校1年生の時でした。書を書くのが好きな祖父は孫に書を勉強させたいという思いから(後に母から聞いた話です)、太筆と小筆が入学祝いでした。そして、担任の先生にお願いし習字クラブでの習字の勉強が始まったの

です。習った作品を持ち帰ると朱が入った作品でも、いつも褒めてくれました。その当時の喜びが書が続けてこられた原点となっています。

中学になり祖父の勧めで、書道芸術院・毎日書道展・群馬県書道展の審査会員として活躍されていた碧玉会会長の金澤魯水先生にお世話になることになり、現在に至っています。碧玉会では最年少で何も解らず先輩方に面倒を見て頂きながらのお稽古でした。古典臨書の指導では特に線質を注意され、小手先で書いてはいけない、ただ字を真似ているだけではない、その時代背景や筆者の思いを考えながら学ぶこと、観察力を養いなさいと、一からの勉強です。

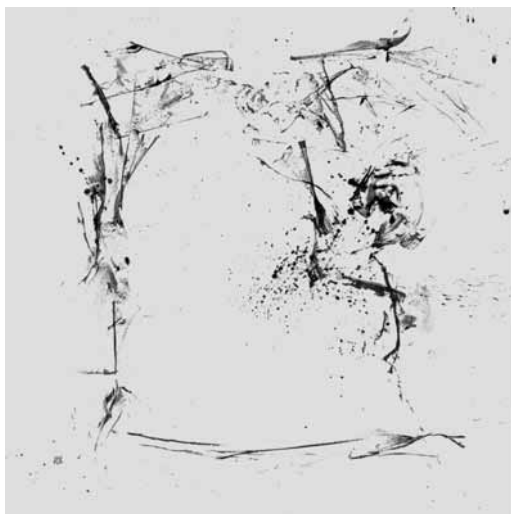
碧玉会古典研究会では、中島邑水先生がお見えになり、古典臨書の勉強と揮毫を間近に拝見することができました。中学3年生でした。その当時は大先生であることも知らず参加していました。先生の鋭い眼、そして一本の線を引く力のこもった筆遣い、先生の迫力は今でも脳裏に焼きついていきます。衝撃でした。このことも私の書の

基となっています。

金澤先生との出会いをきっかけに墨象の世界に魅了されていくのです。公募展の出品を薦められ、練成会に参加しましたが、墨象の意味も何も解らない私は驚きと戸惑いで帰宅したことを覚えています。先生は「墨象は黒と白の芸術だ」「食い込むような力強い線を書きなさい」とよく話されました。今頃になり先生の言葉が理解できるようになりました。自由であるがゆえに難しく、作品に自分の思いをどのように表現するか、墨色や線質、構成を考え試行錯誤し作り上げていきます。その繰り返しに苦しみもありますが、思いもよらない発見もあります。それが私にとって楽しい時間でもあり墨象の魅力でもあります。同じ繰り返しではなく、常に新しい発見を求め挑戦していきたいと考えます。

金澤先生の逝去後、私自身書道をやめたかと思いましたが、先輩の先生方に励まされ、現在は碧玉会の仲間と切磋琢磨し楽しく勉強しています。その機会となったのが昨年の社中展でした。初めての経験です。ジャンルを問わず多方面の先生方にアドバイスを頂き、会議を重ねていくうちに会員の取り組みが積極的になりました。作品制作においても変化がみられ、公募展にはない自由な発想から自己表現する楽しさを掴んだと思いました。遠慮なく感じたことを伝えられる強い絆ができたのです。この感動を忘れずに会の仲間とともに一歩一歩明日に向かって頑張っていきたいと思えます。

書と出会うことができ幸せです。



上毛書道45回記念展「円舞」

福田玉翠書

書道芸術院

令和の群像 (2026)



鈴木承琳 (宮城)

「言葉のちからと感性」

私は40歳をふたつ過ぎてからの入門であった。子育ても一段落、これからの生き方を模索する時、社会との関わりを少し持ちながら歩む人生はないかと自問自答、浮かんだが書道。どういう訳か小さい頃より先生に褒めていただいたことがずっと記憶にあり、進むべき道かと思ったのが始まり。即、宮城野書人会入会。それからという日々、貪るように書き捨てた。遅すぎたことを悔いるように書いた。早く皆に追いつきたいの一心で何事にも最優先。各地の書道展には、関東から北海道まで足を運び、眼を養い、心に栄養を補った。その頃の私にとっ

て先生方の自在な運筆、息づかい、人間性、空気感はとても新鮮、魅力的であり、憧れでもあった。外に出てこそ得られる尊い見聞は、今の自分を形成している一部でもあり、礎になったと振り返る。

ある年の錬成会でのこと、自信のない私に斎藤雨城先生は「自信を持つこと」と優しい言葉をくださった。その言葉を自分なりに分析、導いた答は、書くことであった。自分を越え、まだ見ぬ新しい自分と出会うために悩み苦しむことは当然のこと。その先にこそトンネルの向こうの光が見えるのだと。苦しかった。そんな時の支えはテレビの向こう側にいるアスリートの体験談。生々しい言葉の数々。身も心も引き締め、刺激を頂き、やる気が再び湧いたのであった。特効薬が沁みわたるようなありがたさ。

さて、創作への挑み。臨書との関係性も当然ながら、難しいことは誰もが承知。創造力、先見性、感性等、芸術的要素の必要性そして追求。回路を繋ぐアンテナ探し。答は見つからず。筆を握る手と心と頭とが無意識のうちに融合、内なる体の声を聴ける心境になれるまで永遠の課題としたい。

元プロ野球選手、巨星ふたりの対談の中で「今のデータ野球に物足りなさを感じる。感性である」とあった。やっぱりそれかと。非常に納得、感じ入ってしまった。究極は感性——生まれ持ったのか、環境なのか。知るべくもなく、ただ努力あるのみと。

過去、現在、未来を紡ぐその一步は、時間がとても貴重な年齢となった今、少しでも誰かの参考になれば幸いと思い、体験や想いを記した次第です。一生懸命に筆を握り、紙面に向っていると、フツと閃きが降りてくる不思議な感覚、愛おしい。

阿久悠詞「今ありて」、春の甲子園の大会歌。躍動する球児の魂、輝き、ひとつの白球を追う汗と純粋なころろ、第76回毎日書道展出品作、一気呵成に書き上げた。阿久悠さんの詞は時代の魁、斬新さもあり大好きです。作品は詰め込みすぎと反省。

第76回毎日書道展「今ありて」



鈴木承琳書

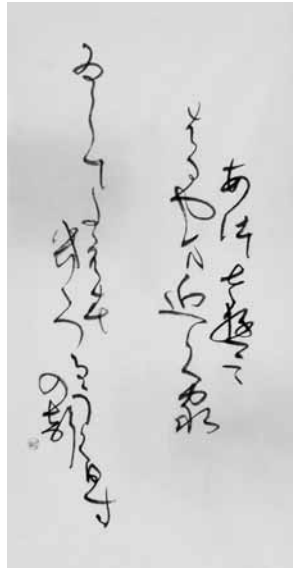
人生の半分にも満たない書道人生です。皆さまのお力をお借りしながらこれから先も書の道を精進してまいります。無口だった天国の夫、遺したやさしい言葉はお守り。ご指導よろしくお願ひ申し上げます。

新 鋭 礼 讃

かな部 審査会員 濱田 竹雪 (千葉県)



所属 邑門会
洞成社
師名 板垣洞仙
参加している書展 毎日書道展・長野
県現代書藝全国展



「新古今集より」

あづさゆみはる山近く家居して絶えず聞きつるうぐひすの聲

作品自評

かなの創作ではしなやかで艶のある美しい線を目標に潤濁、疎密、リズムを意識して取り組んでいます。今回は職場で春になると鶯の鳴き声が聞こえてくるのが好きでこの和歌を選びました。5行構成の散らし書きで長い行と短い行を組み合わせました。左右に同じような文字が並ばないように注意して、リズム感を出すために平がなや変体がなや漢字を用いて行幅に動きをつけるように工夫しました。文字の大小、行間、濃淡の変化をつけるように考慮して書きましたが、かすれが思うように表現できずに苦戦しました。書活動における課題

現在は育児や仕事に追われる毎日で、

書道と充分に向き合う時間を取ることができません。書道と向き合う時間を増やしていくことが今の課題です。書道制作に満足に取り組めていない現状に不甲斐なさを感じていますが、今できることに對してひとつずつ尽力していきたいです。今、伝えたいこと

6歳の頃から書道を始め、今まで続けてこられたのは先生や仲間や家族の支えがあったおかげです。歩みがゆっくりな自分に、いつも温かく書の楽しさを情熱的にご指導してくださる先生方には深く感謝しております。皆への感謝の気持ちを忘れずにこれからも自分らしい書を追い求めて邁進してまいります。

前衛書部・審査会員候補 佐々木 藍 水 (神奈川県)



所属 青蓮社
師名 大町青蓮
参加している書展 毎日書道展
河北書道展



「絆」

作品自評

最近では身近で感動したことを題材にしており、今回はアニメの影響から、思いやりや団結など多くの意味を含む「絆」を選びました。構想は漢字よりもひらがなから考えることが多く、最初にひらがなで書いた後、不要な線を削りながら濃淡や線の流れを整えています。以前は線の表現の幅が乏しく苦労していましたが、近年ようやく意図した線が出せるようになってきました。今回は右側の線を山場にししましたが、その後の中央の回転や後半の収まりの部分にかなり苦戦しました。最終的に筆の動きが最も良いものを選びましたが、「絆」らしさには課題の残る作品になりました。

書活動における課題

6年前に書道教室を開き小中学生を中心に指導してきました。昨年7月からは大人の方も始めましたが、自分自身のかなとペン字の不熟さを痛感しています。勉強の時間を確保したいものの、他の仕事や家庭とのバランスが常に課題です。今、伝えたいこと

今年は通常の教室に加え、夏休み宿題応援教室を開催しました。約30名が参加し、お手本に感動する参加者や保護者も多く、道具を整え上手な作品を書く経験自体が貴重だと改めて感じました。結果的に入会者はいまいませんでしたが、こうした機会が書への関心につながると信じ、今後も地道に続けていきたいと思っています。

『書道芸術』クロニクル(5) 第25号

書道芸術

25

書道芸術院

発行日 昭和34年(1959)12月1日

編集兼発行人 香川峰雲

印刷 吉田印刷株式会社

総頁 24ページ(表紙含む)

価格 80円

口絵写真 黄庭経・大唐中興頌・京極前

関白太政大臣集・良寛

研究部優秀作品10点

手本揮毫 多田観山・関口虚想・岩垣翠城

加藤翠柳・高宮金陵・金沢魯水

競書成績 師範部：3名

研究部：特選14秀作13入選12

規定部：291名(準師範十秀10級)

随意部：253名(準・二・初十優10級)

臨書部：107名(準師範十110級)

条幅部：61名(準師範十310級)

篆刻部：7名(1級10級)

研究部9名(写真版は口絵)

規定部29名(写真版は18名)

競書短評

随意部23名(写真版は18名)
 臨書部20名(写真版は10名)
 条幅部15名(写真版は6名)
 篆刻部6名(写真版は3名)

記事 ①鼎談「展覧会の臨書作品」

②前進への課題：群馬県展書道
 ③書道講座(第一期の4)
 ④この作品をとりあげる
 ⑤書道芸術院報(会報)

【解説】(文中敬称略)

記事①は、来たる第13回書道芸術院展の第4部(臨書作品)に出品予定の人を念頭にした座談会。副題に「なぜすぐれた作品ができないか」とあり、前回展で指導者の臨書手本をそのまま臨書したような作品が並んだことに対し、警鐘を鳴らす。古典から学ぶことを忘れ、ただ利用することだけに目を向けてはいけない、と手厳しい。古典を研究し、個性豊かなその人らしい高度の作品を出品してほしいとまとめている。

②は第10回群馬県展に対する武士桑風の感想。漢字とかなの作品に対し、類型が多すぎるとする。臨書についても、自分の目で見ないで、誰かの目に頼っているのはダメだと警告している。前衛書に対

しては、もっと冒険が欲しい、もっとはげしい人間の内部世界の追求を望みたいと述べる。

項目だてはしなかったが「書壇往来」や「休憩室」の欄もあり、会員の結婚の記事があったりする。⑤のページに「編集後記」があり、「私事にふれて恐縮だが」と前置きし、続けて「娘の倫子が今度よき配偶者を得て結婚した。なにか大切にしていた物を無理なくそっと持ち去られるような気持である」と花嫁の父の真情を、香川編集長が率直に吐露している。

【昭和34年の「書道芸術」競書を中心に】
 1月号：前年同様、規定部(半紙課題)、随意部(半紙自由)、研究部(全て自由・段級無し)、篆刻部(段級無し)

2月号：口絵に研究科特選写真が入る
 6月号：規定部(半紙楷書課題)、随意部(半紙自由)、臨書部(半紙課題)、条幅部(半紙課題)、研究部(半紙半切以外で自由)、篆刻部(自由)

* 研究部以外は段級を設ける
 8月号：師範部(師範と鑑査員による自由出品)を新設
 10月号：師範試験と昇級試験の結果により、準師範や段位取得者が誕生
 以上のようなのであるが、6月の改正と試験制度の導入により、月例競書のシステム

が整備、改善された。

その他、2月号で8ページ増えるとともに定価が80円に値上げされた。また、3月末で中島邑水編集長が退任し4月号から香川峰雲が発行人と兼務することになった。5月号から3回に分けて、ブラジルの美術評論家ペトロローザを迎えての座談会が掲載された。同席した手島右卿がサンパウロに出品した「崩壊」について、抽象絵画と比較しながら芸術論が戦わされている。現在、巷間に伝わっているこの名作の捉えられ方とは若干のニュアンスの違いがあるようだ。

その他、2月号から「人物紹介」として月にひとりが写真付きで掲載されるようになったが、途中で中断している。書壇の真話や芸術院の人間模様(交友?)なども、コラムの形で載っていて、ニヤリとさせられる。

記事③より興福寺断碑風の創作手本



香川 春蘭

蘭亭叙 (東晋 王羲之) ③

漢字研究部臨書課題

Ⅱ (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ (A 大作の部 毎日展覧委員・倉サイズ以内、2×6尺、全紙も可) 当該古典の左記掲載部分以外も可。
(B 小品の部 半切以上半切以内、全紙以内も可) (A・B 縦書き)

〔解説〕「蘭亭序」について、上田桑鳩は「潤い、清らかさ、静かさ、活動力、勢、変化と統一など、あらゆる要素が含まれている」と指摘している。字形は「穩当」で「平凡なよう」だが、「線」や「筆勢」などに変化をつけ「ている」として「いくら見てもあきない」と絶賛している。ポイントは、
・筆の構えは側筆。運筆は速めに、緩急抑揚をつけていきいきした線にする。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

・線の初めは軽やかに入れ、空間の運筆は大きく廻るようにする。
・線を練って内に力や情をこめ、筆勢は外側へはじきだし、空間を大きくつかむ。また、どこまでも続けて息長く書くところもある。
・一字の中に、字を支える柱になる線を強く書き、他はそれに添えるように書く。強弱、軽重、緩急の虚实をつける。(創元社「書道入門臨書篇」より)

(編集部)

※掲載図版原寸

知老之將至及其所之既倦情
隨事遷感慨係之矣勠心所
欣俛仰之間以為陳迹猶不
能以之興懷况脩短隨化終

知老之將至。及其所之既倦。情／隨事遷。感慨係之矣。向之所／欣。俛仰之間。以為陳迹。猶不／能以之興懷。况脩短隨化。終

(北京 故宮博物院藏)



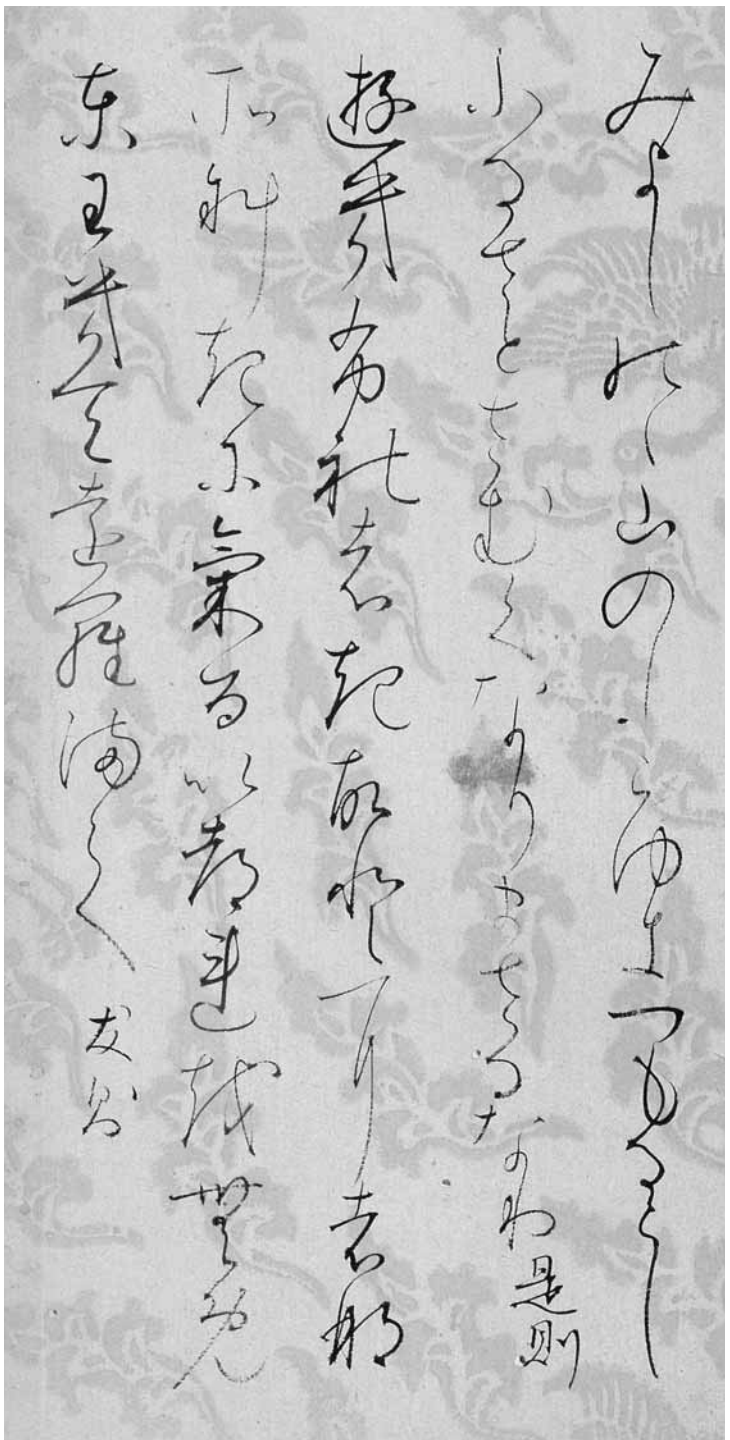
267

粘葉本和漢朗詠集
(伝藤原行成筆)

③

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

〈よみ〉^能みよしのく山のしらゆきつもあるらし／＼ふるさとをむくなりまざるなり是則／＼^利ゆきふればきことにはな／＼^遊そなきにけるいづれを^免むめ／＼とわきてをらまし友則



三の丸尚蔵館蔵

※掲載図版原寸

かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用) 別紙を裁断して貼付も可。
半横紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
A 大作の部 毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。▽

※古筆は原寸(以上も可)で臨書して下さい。

〈解説〉上記の図版は、「雪」をテーマにした和歌の2首目と3首目である。坂上是則と紀友則の歌で、友則の歌は「草がな」で書かれている。図版は上巻の終わりのあたりの部分であるが、上巻には同様の書き方が他に5首ある。漢字の草書と區別がつきにくいのが、よく観察すると、草書よりも形が崩され、流れと動きが強調されていることに気づくだろう。直後の漢詩が行草を交えて1行14字で書かれて字間が詰まっている。草がなの方が字間も含めてゆとりがある書き方をしていることにも留意したい。

(編集部)



拈華微笑

よみ (拈華微笑)

書体 自由

習い方解説 (3)

名越蒼竹

拈華微笑
(拈華微笑)

〔禪語〕

本意を知る者同士での以心伝心の具体例。

王鐸の書法を参考にしました。王鐸の書は連綿草で書かれた「臨書」作のイメージが強烈で、臨書と言っても半分は「創作」のイメージがあります。つまり法帖の字をヒントに「自分ならこう書く」と主張している感じです。それに比べると自らの詩文を書くときは草書体の文字が少なめです。

参考作品は「華」を草書体にしました。少し動きを取り入れたかったからです。他の字はあまり奇抜な形にならないようにデフォルメを抑え気味にしたつもりです。

作品化する場合、行草書の場合には全ての字を派手に書いてしまうと逆に全体が単調になるとともに、作品の「主役」が多すぎることは「見せ場」がぼけることに繋がります。

漢字規定 秀級以下 【7月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

鈴木英晴 選書



竹煙松霧

よみ

(竹煙松霧)

書体Ⅱ行書または楷書

習い方解説 (3)

鈴木英晴

竹煙松霧

〔四字熟語〕

(竹煙松霧)

竹や松の煙霧の色のこと。
自然の美しさを楽しむ様子を表す。

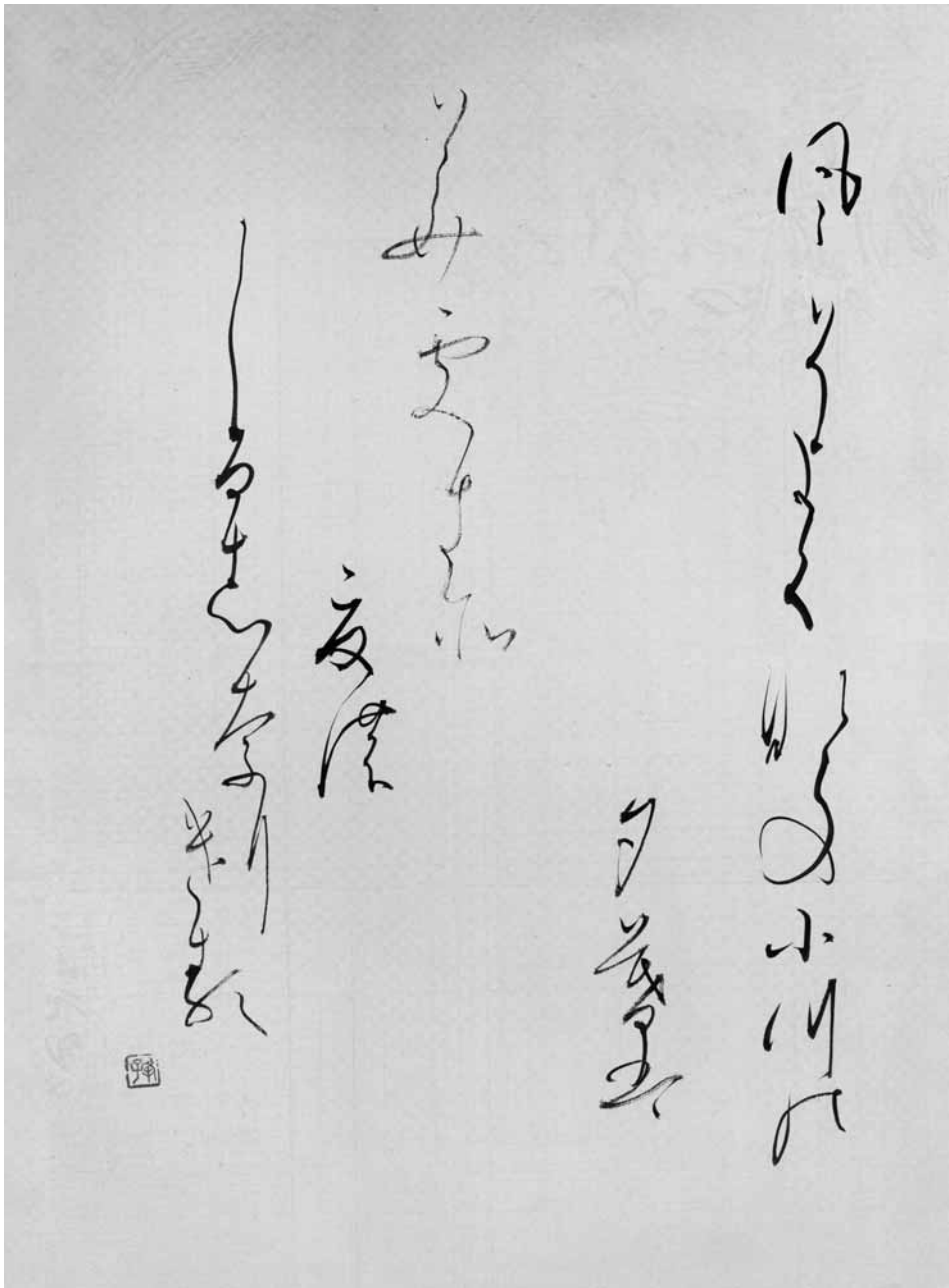
今年度から3か月に1回、行書が出品できるようになりました。行書は楷書より速く書け、草書より読みやすく、より実用的な書体と言えます。筆脈を意識し、点画の連続や省略、字形の変化に注意して書いてみましょう。

行書を書くにあたっては、行書としての字形が整っている、王羲之の蘭亭序や集字聖教序を臨書して、形をよく覚えることが大切です。作例はこれらの古典を意識して、点画を柔らかくし、落ち着いた感じで書いてみました。

筆は羊毛の長鋒を使用しました。

〔編集部より〕

予告では「行書に限る」としましたが、「行書または楷書」に変更します。



よみ方 風そ(曾)よぐ(久)な(那)らの小川の(能)夕暮は(盤)

み(美)そ(處)ぎ(支)ぞ(所)夏の(濃)しるし(志)な(奈)りけ(遣)る(類)

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

習い方解説 (3)

平川峰子

風そよぐならの小川の夕暮はみそぎぞ夏のしるしなりける

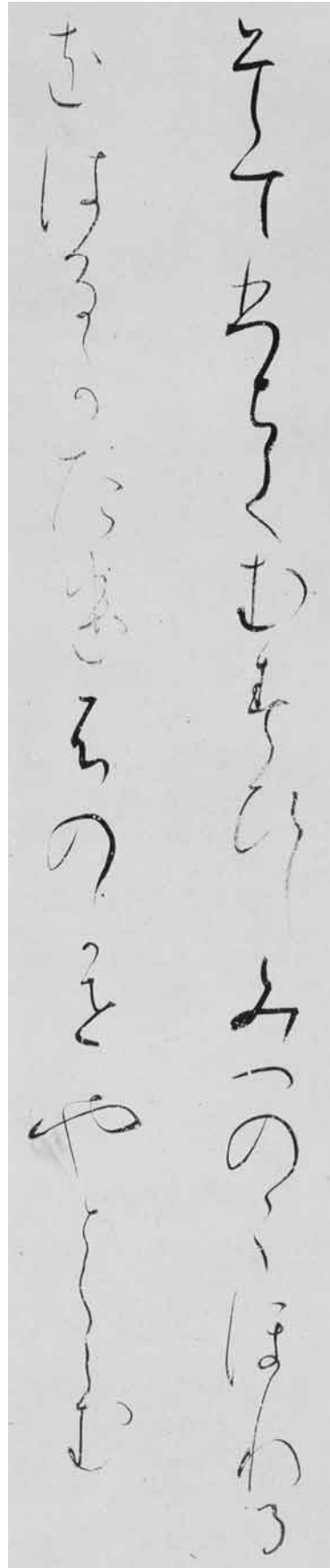
〔藤原家隆「百人一首」〕

風がそよそよと吹いて榎(ナラ)の木の葉を揺らしている。このならの小川の夕暮はすっかり秋の気配となつているが、六月祓(みなぎばらえ)のみそぎの行事だけが夏であることの証なのだった。

「ならの小川」は奈良市のことでなく京都市北区の上賀茂神社の境内を流れている御手洗川(みたらしがわ)を指しています。さらに「なら」はブナ科の落葉樹であるナラ(榎)の木との掛詞で「神社の杜に生える榎の木の葉に風がそよぐ」意味と「御手洗川に涼しい秋風が吹く」という意味を掛けています。

今月の散らし書きの構成は、前半が縦構成、後半を上部に上げて余白を広くしました。墨継ぎは夏です。

かな規定 秀級以下 【7月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1 $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。高野切第一種 (掲載写真原寸)



よみ方 そでひちてむすびしみづのこほれる
 をはるがたけふのかげやとくらむ

歌意 あの夏の日、袖を濡らして手ですくった水が、冬の間は凍っていたけれど、春めいてきた今日、東から吹いてくる暖かい風が優しくとかしているのだろうか。

かな条幅規定 【7月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可) 京 絹子 選書



よみ方 六月や峯(三年)に(二)雲置(於)く(久)嵐(阿らし)山

※夕テ形式に限る

創作

習い方解説 (3)

京 絹子

ろくがつ みねくもお
 六月や峯に雲置く嵐山

〔松尾芭蕉〕

緑深い嵐山の頂上に雲がまるで置かれたかのようにそびえたっているの意。2行目は寄り添うように書くことがポイントです。変体がないかな字典を使い(同じ変体かなでも色々な字がありますので)、不自然にならないよう調和を考えながら用いて下さい。墨継ぎは「あ」です。

漢字条幅規定 初段以上 【7月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書



月落烏啼霜滿天 江楓漁火對愁眠 (張繼)
(月落ち烏啼いて霜天に満つ 江楓漁火愁眠に對す)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【7月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大平邑峰選書



後人觀古書每隨己境地 (趙翼)
(後人の古書を観るは毎に己の境地に隨う)

書体||自由

習い方解説 (3)

種谷萬城

今月は、清の吳昌碩の篆書を参考にしました。吳昌碩は、篆刻・書・画に優れ、書は石鼓文を生涯にわたって臨書し独自の作風を開拓しました。篆書の学習では、吳熙載・鄧石如・趙之謙など清朝の碑学派は欠かせません。金石文を広範に学んだ書人による毛筆で書かれた篆書は筆意が学べます。なお、「眠」字は篆書では「𦉳」に作ります。

※タテ形式に限る

習い方解説 (3)

大平邑峰

今回は、10文字の語句の2行書きです。2行となると行の中での変化だけでなく、1行目と2行目のバランスが大事になってきます。文字が隣り合わないようにと配字を考えましたが、2行目下部の余白が広くなりすぎました。今回も蘭亭序を参考にしましたので、はやることなく自然な変化の美を求め工夫してみてください。

寄り来る波返る波
 さらりとさらりと郷音は
 松の風そよと吹く
 のどかなる今日の海や
 浦のあけくれより 紅瑤書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (3)

倉林紅瑤

「浦のあけくれ」は日本の唱歌・歌曲であり、大正・昭和初期の教育現場や音楽教育において知られた楽曲です。作詞したのは「早春賦」などを手がけた作詞者で文学者でもあった吉丸一昌(1873～1916)。作曲は18～19世紀に活躍したイギリスのジョセフ・マッジンギ。海辺の朝や一日を描写した叙情的な歌で、のどかな海の情景や松風の音などが描写されています。穏やかな一日の始まりを感じさせる曲です。

「平がな」を自然になめらかにつなげるためには、「連綿の休みどころ」の要領を正確に習得することが欠かせません。2字連綿の場合、1文字目から2文字目の最初の部分まで続けて止める(休む)のが基本です。2文字目の最初の部分までが1文字目のリズムの領域と考えます。

寄り来る波 返る波
 さらり さらと響き
 松の風 そよと吹く
 のどかなる 今日の海や
 「浦のあけくれ」より ○○書

季節の言葉・七十二候より

大雪第二候 虎始めて交わる

冬至第三候 水泉動く

小寒第一候 雁北に郷むかう

大寒第三候 水沢腹あつく堅し

千葉蒼玄

(掲載手本85%に縮小)

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の氏名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

季節の言葉・七十二候より／大雪第二候 虎始めて交わる／冬至第三候 水泉動く／
小寒第一候 雁北に郷むかう／大寒第三候 水沢腹あつく堅し／氏名



かな条幅部 師範 関口やよえ
リズム感に優れ線質の強さが効いた作。行間の余白と墨の潤濁の響き合いが心地良く美しい。

◎かな条幅部総評 2行作品を構成する時、大きい字の隣に大きい字を書かないように。潤濁の変化を大切にして下さい。(峰子評)



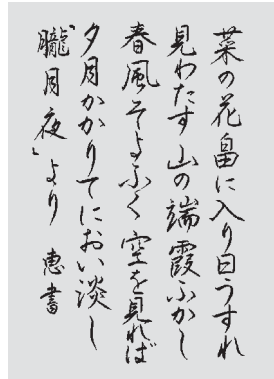
漢字条幅部 師範 森田 藤谷
練度の高い筆線が自在に躍動し、紙面を謳歌している。整理された筆画が品格を高めている。

◎漢字条幅部総評 各体で表現され興味深く拝見できたが、今回は殊の外誤字が気になった。また全体を掌握することが大切。(石雲評)

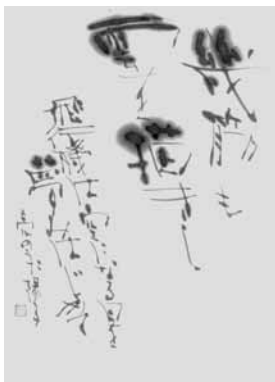
漢字部 師範 小木曾泰香
大らかで広がりある運筆が紙面に動きを与えている。細やかな情感が加わればなお良し。
◎漢字部総評 暢びやかな表現の作多く好感。書体、書風の変化などさらなる工夫、挑戦を望む。落款の研究も深めたい。(大雲評)



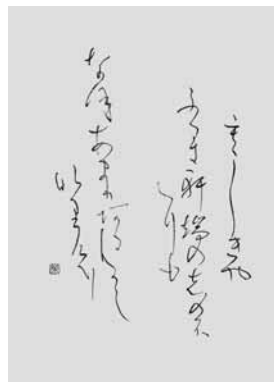
前衛書部 特選 西館 四草
深奥な世界感がどこまでも続くような広さを感じられ、墨色との響き合いも絶妙で心魅かれる作。
◎前衛書部総評 様々な挑戦がみられる作品が多く可能性の大きさを実感。(紅雪評)



ペン字部 師範 小林 恵
強い線質で一行一行存在感があり、生き生きと書かれた文字が響き合っている。印があると良い。
◎ペン字部総評 大らかな表現の作品が多く、左右に余白を取り、漢字は大きめ、かなは小さめに書くこととバランスが良い。(富美子評)



現代詩文書部 特選 千葉 陽子
淡墨の滲み美しく字間にゆとりがある。細線が暢びやかで、全体構図も落款も見事な作品に感服。
◎現代詩文書部総評 多彩な表現の作が多いことは大変良い。作者名、自署も入れてほしい。(和楓評)



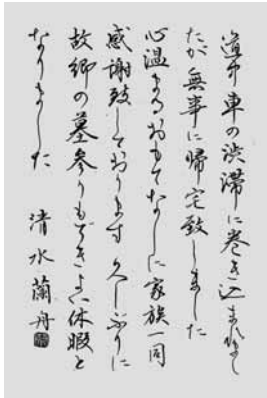
かな部 師範 星野 栄花
少々コロコロしているが、大胆なリズムが面白い。難しい横の動きがこれだけできるのは頼もしい。
◎かな部総評 一般的にかな作品は上部を広く空けた方が落ち着く。師範の方はなるべく料紙で書きたい。墨量の工夫を。(洋子評)

選評 小竹石雲

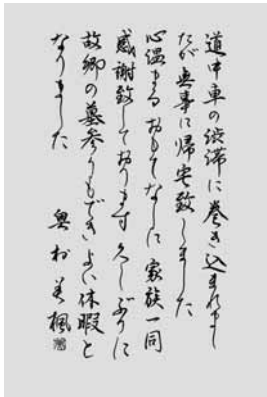
◎實用書部総評

手紙文では墨量の変化があると心情が伝わってきます。またあまり墨量が多すぎない方が心が和らぎます。何よりも丁寧さが大切。
(石雲評)

特選 清水蘭舟
筆力があり伸びやかな太細の変化の中に爽快さがあり魅力的。



特選 奥村美楓
明るく温和で健康的筆致の作、流れも無理がなく見事な作。



今月の注目作
鈴木 谿琳



上啓	玉州	四枝	深大	紅瑤	佳	宗苑	たか	書泉	澄春	書游	龍水	千葉	土気	幕張	有秋	大雲	水荳	特選
啓佳	角張	奥川	浅野	相澤	作(60書)	茂木	浜野	鈴木	新行	佐藤	鷺山	白井	安藤	高橋	五十嵐	奥村	清水	蘭舟
柏谷	春日	弘美	啓子	敦子		永重	叙舟	谿琳	内芳	華園	美梢	綾乃	叙孝	賢雲	美楓	美楓	蘭舟	
和子	裕子	芳蘭				絢水			芳蘭									
書游	たか	祥華	素朴	秀水	一心	蒼陽	ここ	秀苑	高真	八街	春汀	入選(60書)	池田	もく	大阪	蒼田	深澤	常盤
庄司	猿渡	佐藤	坂本	坂本	権代	小池	熊井	加藤	落合	岩上	伊藤	石森	池田	本郷	古川	平野	中須	水津
咏舛	箕石	素朴	初江	泉	雪華	裕子	宏子	翠陽	和芳	郁子	照子	博子	美津子	谷恵	彩逕	和江	三胡	恵風
		幸福	華島	小翠	白露	八街	常盤	墨遊	東原	春城	紅瑤	もく	八遊	福山	掃雪	高真	華洋	竹原
		幸松	柳瀬	三村	松本	松村	保谷	弘中	桂舟	東原	春城	紅瑤	もく	徳永	津田	武井	高木	代田
		梅香	瓊苑	小園	陽子	美芳	美芳	宏雲	宏雲	春城	春汀	藤家	翠芳	京仙	李花	一江	栄杏	葉子

(選外360名氏名略)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 千葉蒼玄 半田藤扇 平川峰子

小品の部

臨書 (菊月) 新井恵子 「粘葉本和漢朗詠集」

◆漢字部分の字粒が端正で、優雅な王朝文化の空気感が伺える。かなの細い線条が丁寧な筆運びで美しく上品で秀逸。のびやかで息の長い臨書作品。(峰子評)



新井恵子臨

35×134cm

漢字 (花笠) 高橋清琳 「七言二句」



136×35cm

◆長鋒の羊毛で自由闊達な動きに感動する。筆の穂先を巧みに駆使し、バランスよく作品をまとめた。明るさのあるさわやかな作となった。(藤扇評)

現代詩文書 (宗苑) 白井真理 「三浦喜代子の歌」



135×35cm

◆いつもながらの熱の籠った力作に感心します。墨の入れ方の大胆さと、筆線の強さがこの作の命だと思ふ。2行目の左側の余白がこの作を一層盛り立てている。(石雲評)

◆力強い線が上部から一気に下り、圧倒的な迫力を生み出している。中央の飛白も巧みに生かされ、作品全体に緊張感と躍動感を与えている。(蒼玄評)



部分拡大

前衛書 (篤信) 三浦朱鳳 「春風」



134×35cm

総出品点数	72点
漢字	36点
かな	3点
創作の部(33点)	漢字 7点
	現代 10点
	篆刻 1点
	前衛 7点
臨書の部(39点)	漢字 36点
	かな 3点

- 〈特選候補者〉
- 〔漢字〕 杏苑 松永 杏苑 麗澤 富田 瑤翠 〔現代詩〕 苑袖 若見 苑袖 白扇 天野 白扇 蒼風 伊藤 蒼風 蒼香 高橋 蒼香 蒼花 坂本 蒼花
- 〔前衛〕 秀水 坂井 初江 大抽 佐藤 陽子 蓮紅 大友 紅蓉
- 〔漢字の部〕 堂光 佐藤 光耀 眩耀 佐々木 青霞 大雲 江本 興舟 京橋 新川 芳勝 澄春 豊嶋 勝 八街 相楽 天翔 八街 奥川 麗流 四枝 興川 芳勝
- 〔漢字の部〕 谷秀 原島 春汀 澄春 深澤 佳月 八街 安藤 麗英 八街 相楽 天翔 八街 奥川 麗流 四枝 興川 芳勝

〈小品の部〉

◆前半と後半は特に長鋒を駆使した筆線の響きが見事。大らかな連腕から醸し出される線条が一段と情趣を深めている。
(石雲評)

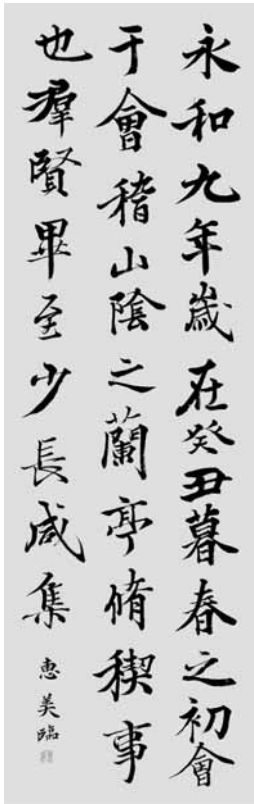


市川紫泉書

60×180cm

臨書 (大雲)

舟寶恵美
「蘭亭叙」



175×55cm

舟寶恵美臨

◆豊かな文字の表情が紙面に行きわたって見ていてとても心地よい。行書の基本となる蘭亭叙、この美しさを見事に熟知している。
(藤扇評)

前衛書 (京橋) 前浜裕香
「吟」



前浜裕香書

106×136cm



180×55cm

三浦麗川書

◆重厚感のある安定した作。筆勢強く悠然とした筆致はお見事である。気迫のこもった表現力、新しい美の世界へ...
(藤扇評)

◆文字の連想性を超え、線の迫力が強く迫る。静と動の対比が鮮やかで、雄大な空間表現へと昇華された秀作である。
(蒼玄評)

漢字

(八街)

三浦麗川 「夏晨聞蟬」

〈大作の部〉

創作の部(38点)

漢字 10点

かな 2点

現代 8点

前衛 18点

臨書の部(13点)

漢字 12点

かな 1点

総出品点数

51点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

秀恵 阿部 雅悠

創珠 阿部 珠翠

大雲 長島 優雨

大雲 奥村 美楓

千葉 竹浪 叙舟

「かな」

清月 境野 和子

〔現代詩〕

四枝 伊藤 四夏

もく 西川 藤家

〔前衛〕

玉川 御園生 芳瑠

月華 浅野 涌翠

容洲 阿部 邑里

玉州 遠藤 和香

一弦 道塚 紫音

紅瑠 廣田 紫

〔臨書の部〕

〔漢字〕

千葉 佐藤 桂香

紅瑠 相澤 敦子

青蓮 大町 菜園

たか 浜野 永堂

漢字研究部
(蘭亭叙)

選評 西川 翠 嵐

今月のホープ作品



佐々木 藍 水

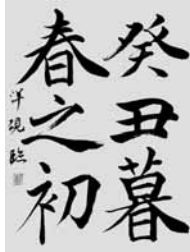
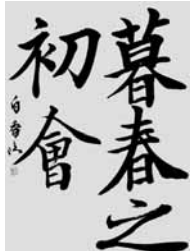
◎漢字研究部総評

今回の課題は中国書道史に燦然と輝く東晋の書聖王羲之の代表作「蘭亭叙」です。先人

の書を熱心に勉強し毛筆書に革命的発展をもたらした後の書人に絶大な影響を与えます。7世の孫・智永はもとより趙孟頫、空海、明末清初の王鐸は一日創作すれば一日羲之を臨書したといわれています。数多い法帖の中でも今回の神龍半印本は筆路が明確ですので、わずかな太い細い、長短、入筆のひねり等のがすことなくとらえて表現してほしいものです。



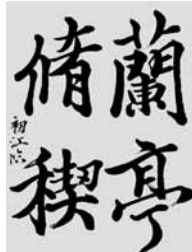
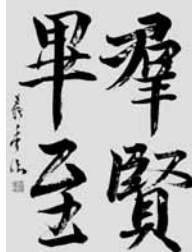
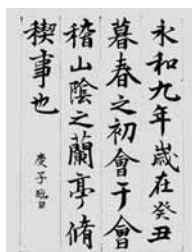
永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地



永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地



美佐子 久香子 白硯子 洋美子 裕美子 素朴子

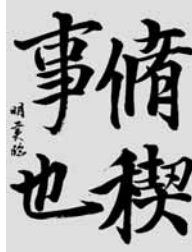


永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地

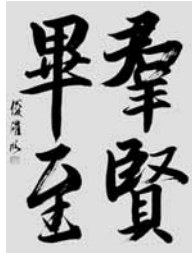
慶子 恭子 良子 泰子 初江子 星子



永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地



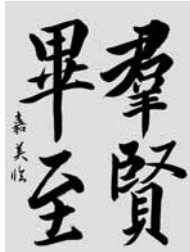
永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地



史子 令潤子 明美子 百合子 俊雄子



永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地



永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地

永環 千秋 紫春 嘉美 白珠

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字28点・かな13点)

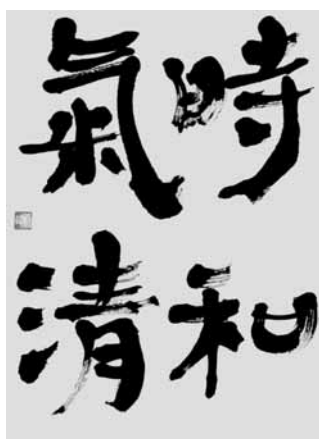
選評 辻元大雲・下谷洋子
漢字秀逸作



茂木 絢水



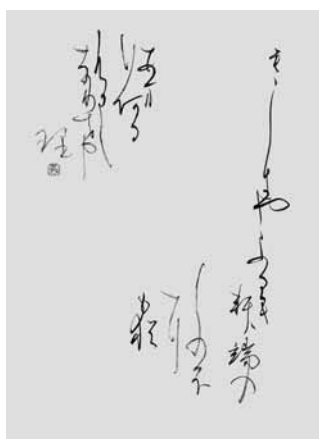
神谷 雲卿



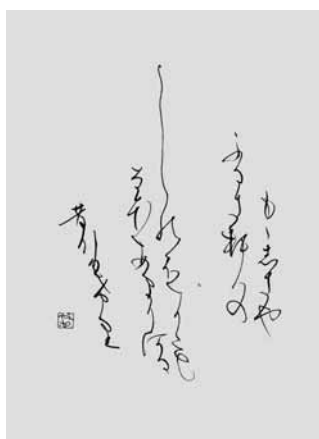
森田 藤谷



佐藤 光耀



佐藤 一義



石崎 甘雨

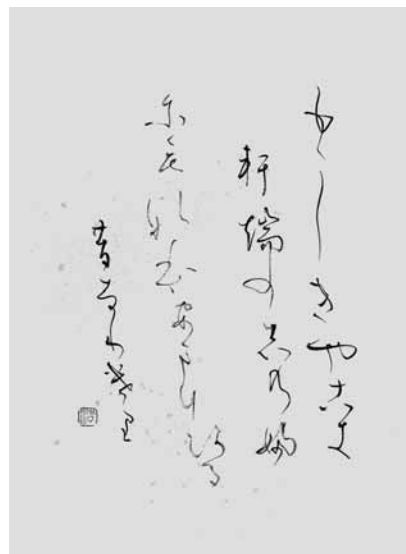
〈次点・50音順〉

小川 白柳



小気味よい運筆のリズムが紙面に軽妙に響き、明るく爽やかな作となった。落款も切れ味よくまとまっている。位置がやや上すぎた感あり。(大雲評)

かな秀逸作



佐々木 浩子

連綿を少なく気脈のリズムでまとめた稀有な作品。難しい字間の間の取り方が絶妙で、字の大小と相俟って温かく柔らかい趣きを醸し出した。渴筆も効果的。(洋子評)

「書道芸術」特別昇段級試験 師範合格者模範作品

かな部 第三種

・3点ともバランスよくできていました。臨書は字形、線ともによくつかみ、創作は明るく伸びやかでした。

(下谷洋子)

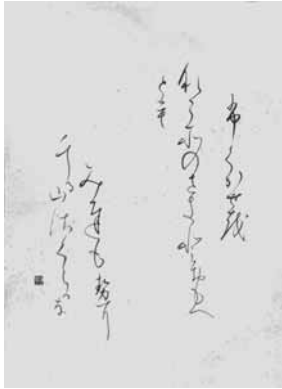
臨書 (関戸本古今和歌集)



臨書 (寸松庵色紙)



創作



・古筆は墨色の濃淡、線の太細がよく表現され、創作はリズムよく切れのある筆致が見事な作品です。

(小島孝子)

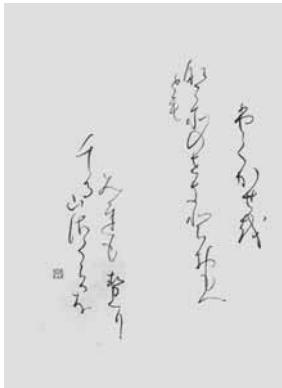
臨書 (関戸本古今和歌集)



臨書 (寸松庵色紙)



創作



総評

審査長

下谷洋子

「書道芸術」特別昇段級春季試験が行われました。春季の三種の実施科目は「漢字条幅」「かな」の2部門で、他は二種までです。残念なことに今年は昨年より全体として受験者数が減少しました。

昇段級試験には臨書があります。創作を充実させるためにも臨書は学書の重要な方法です。審査では字形のみならず、線質やリズム感、墨量などを広範囲にわたり評価しますが、原帖があるため、それをどのように理解して臨書するかにかかっています。特に高段では原級留め置きも出てきますので、自分の弱点を知ること大切です。毎年課題の古典は決まっていますから、普段から原帖に親しみ、丁寧に時間をかけて取り組みましょう。

三種の模範作品を掲載しましたので参考にさせていただきます。

漢字条幅部 第三種

もく 本郷 谷 恵

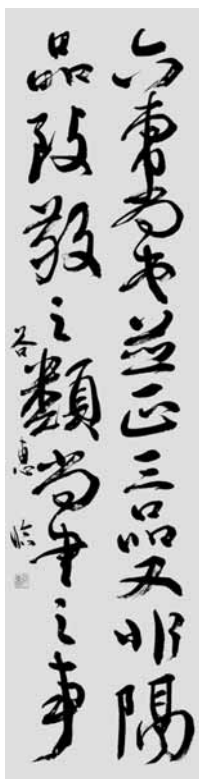
・ 三体とも筆法が巧みで、躍動感に溢れ、線が生き生きとしている。日頃の鍛錬の賜物。見事です。
(種(谷萬城))

楷書 創作



谷 恵書

行書 臨書(争座位文稿)



谷 恵書

草書 臨書(書譜)



谷 恵書

第三種 短評

漢字条幅

真摯に丁寧に取り組まれた楷書、粘りのある線質表現の争座位稿の臨書、八面出鋒での流麗な草書表現、といった大きな目標をもって制作し、その過程での習熟度を高める必要があると思

千葉 井原 俊子

・ 楷書は充実した筆致で重厚感、行書も顔法のねばり強さがある。草書は大きさほしいが切れのある線。
(千葉蒼玄)

楷書 創作



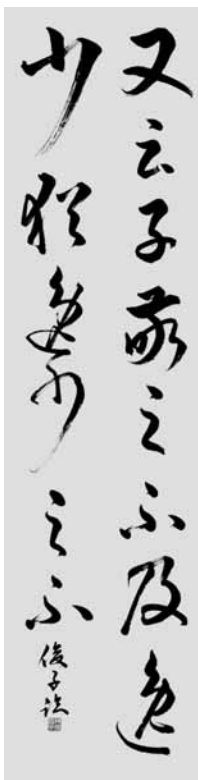
俊子書

行書 臨書(争座位文稿)



俊子書

草書 臨書(書譜)



俊子書

う。高位者ほどハードルを高くして平素よりの精進を期待したい。

(小竹石雲)

かな半紙

古筆も創作も作品として大きな影響を与えるのが紙、「料紙」です。練習

用紙で練習をした上で、仕上げには、

清書の料紙で仕上げましょう。筆の走り、墨の濃淡などの違いがわかります。かなは流麗さ、景色の表現が大事です。自分に合った料紙を見つけましょう。

(小島孝子)

第一・二種短評

漢字

〈一種〉孔子廟堂碑は、伸びやかで自然な運筆により、端正な字形を表現できるとよいと思います。力の入り過ぎに注意し、穏やかで上品な特徴をとらえしっかりと臨書しましょう。

(北村白琉)

〈二種〉蘇慈墓誌銘の臨書は字形の大きさに配慮し、しっかり特徴を捉えること。行書創作は、工夫を凝らし、変化のある作品が多かった。たくさん臨書の学習をし創作に生かそう。

(菊池富美子)

かな

〈一種〉高野切三種はかなを学ぶに一番最初の古筆と思う。書き込んでいる作は大らかな運筆で輝いて見えます。臨書に真摯に取り組む姿勢が窺え、一種は安定した作品群でした。(見越雪枝)

〈二種〉粘葉本の張りつめた線条を捉えるのに苦労された感あり。創作は字数の少ない俳句のため紙面の構成が重要です。文字の大きさや配置を充分考えて取り組んで下さい。景色大切に。(見越雪枝)

漢字条幅

〈一種〉5字句1行を楷書または行

書で表現する。バランスの良い配字がまず大切。紙面を生かす工夫をしてほしい。筆勢があり気脈の通った作品を指摘してください。(三浦鄭街)

〈二種〉臨書は、欧陽詢のキリッとした特徴を良くつかんだ作が多かった。創作は創意に富んでいたが、やや自己流が強すぎ全体の調和に欠けるものも見られました。(西川翠風)

かな条幅

〈一種〉俳句は字数が少ないので構成には苦慮しますが、表情豊かな作品にしたいです。今回、字粒が大き過ぎた作品や、墨色の変化に乏しい作品が目立ちました。(松村くに子)

〈二種〉俳句は文字の間違いが少しありました。和歌は概ね流れのある作品に仕上がっていましたが、かなと漢字のバランスには配慮していただきたいと思えます。(松村くに子)

ペン字

〈一種〉文字の大きさと行間の調和が取れると作品が美しくなりに心に響きます。線質と字形も大切な要素ですので流れも考慮しバランスのとれた作品に仕上げましょう。(菊池富美子)

〈二種〉丁寧にかかれた作品が多く好感を持ちました。楷書は一字一字しっかりと書くよう、行書は行の流れも考慮し、全体の調和が取れた作品を書くよう心掛けましょう。(北村白琉)

「書道芸術」特別昇段級試験 師範合格者

かな

23名

清月 相川 京子
深大 浅野 弘美
清月 飯島トミ子
白琉 石関 春月
卯月 色川 穂麗
雲雀 笠原 紫玉
卯月 加納ひろ子
上泉 久保由梨奈
高崎 黒沢安都美
清月 小林 緑
菊月 斎藤 功
千葉 酒井 典子
富貴 佐々木千芳子
華祥 佐茂 明祥
小島 鈴木 正子
棟高 高橋 信乃
高真 武井 一江
AI 武内みどり
玉川 谷川恵美子
竹扇 寺前 華扇
清月 徳江 淳子
佑朋 原 祐子
小島 宮崎美江子
(50音順)

漢字条幅

21名

雲雀 秋山 雄心
千葉 井原 俊子
〃 大土奈々可
青蓮 大町 菜園
生大 小川 悠峰
正華 金田 真優
高真 北 美幸
蘇我 佐藤 育嗣
華祥 高野 天音
八街 竹尾 紅櫻
深大 多胡三千代
江龍 田中三三代
四谷 新妻 弥生
硯水 福澤由紀子
大雲 藤井 花香
もく 本郷 谷恵
華祥 三澤美智子
平成 三宅 一隅
附中 矢崎 孝秋
雲雀 山崎 紫心
正華 山中 政代
おめでとぅ
ございました

雁塔聖教序（楷書）

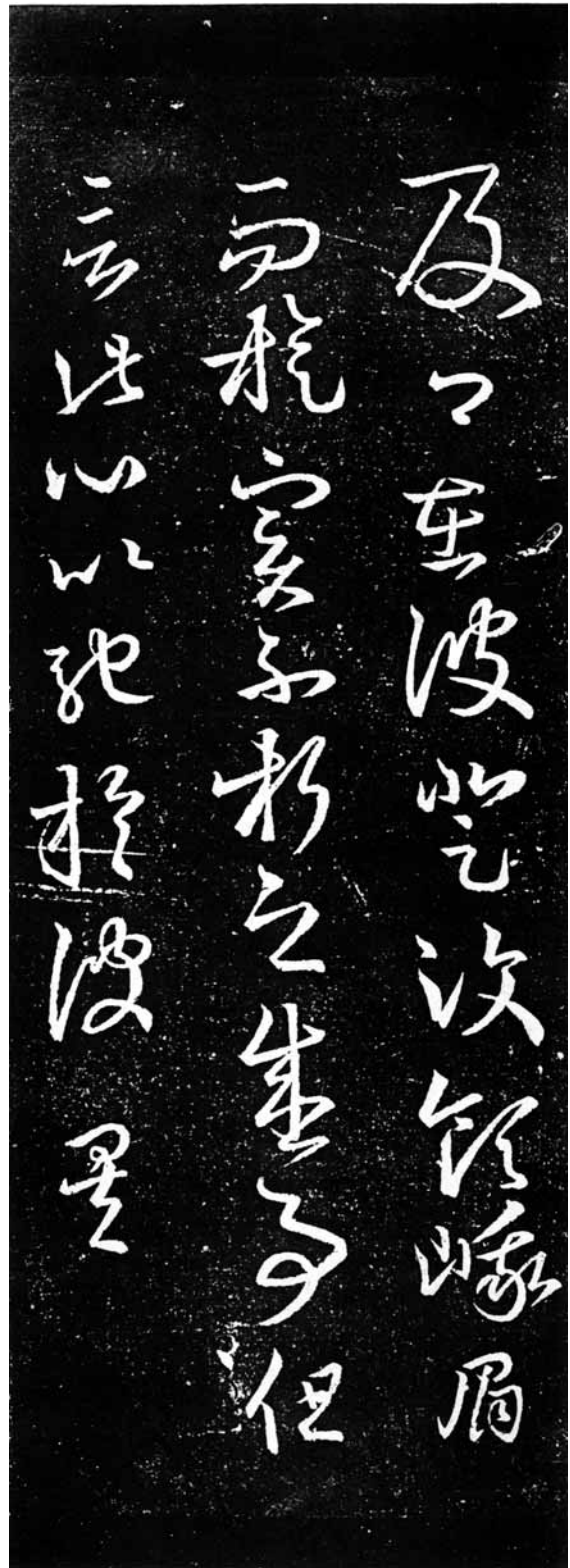
漢字部

第三種

半紙に写真掲載の中から24文字を臨書（原寸にするには125%拡大）



夫桂生高嶺。雲露方得法其花。蓮出淥波。飛塵不能汙其葉。非蓮性自潔。而桂質本



及卿在彼。登汶領峨眉而旋。實不朽之盛事。但言此。心以馳於彼矣。

(原寸にするには125%拡大)

※臨書作品を書く際、落款は必ず「〇〇臨」とすること。「臨」を忘れないでください。

顔勤礼碑 (楷書)

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書

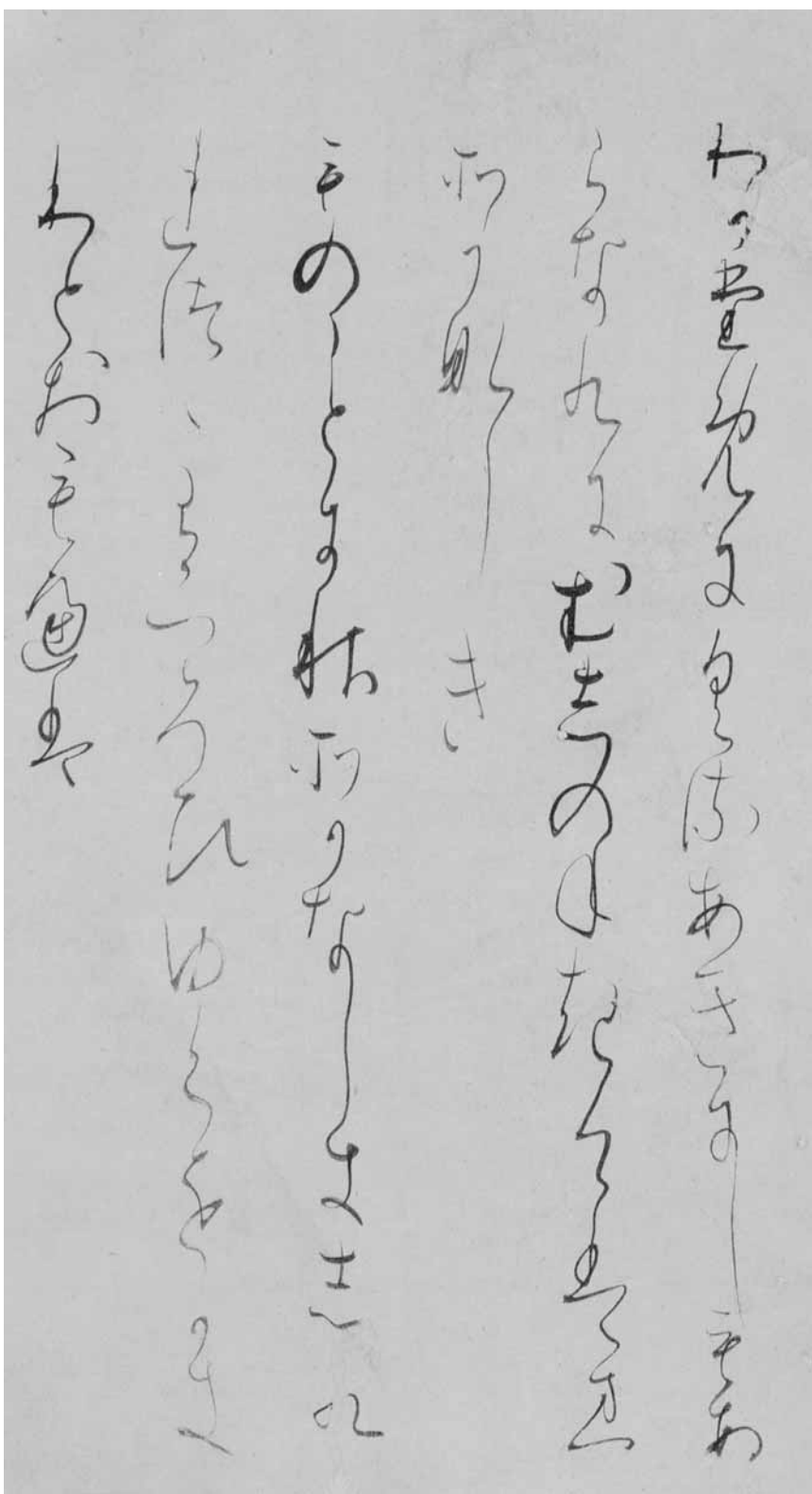
△50%縮小▽



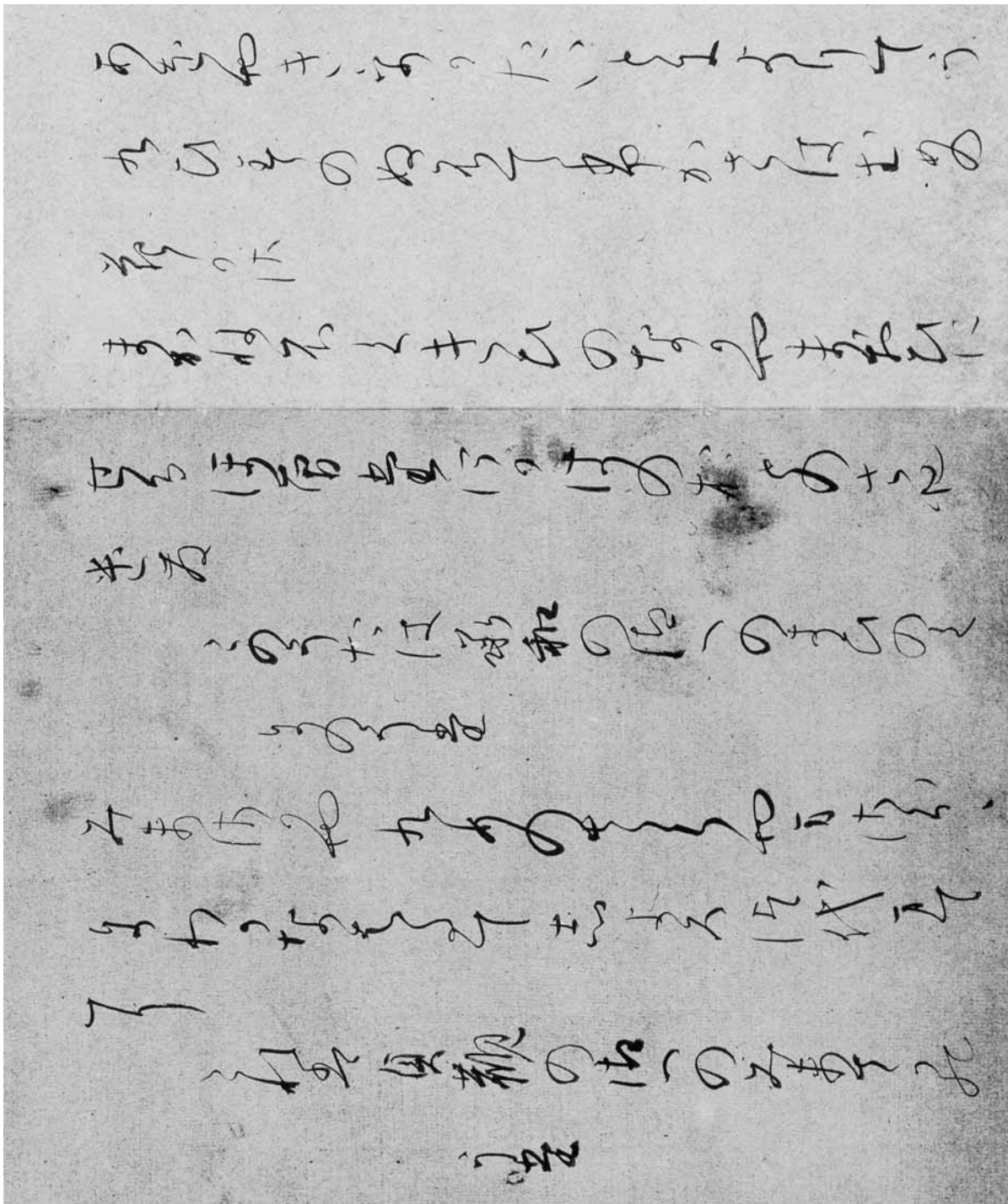
王侍讀。贈華州刺史。事具真卿所撰神道碑。敬仲

(原寸にするには200%拡大)

△原寸▽



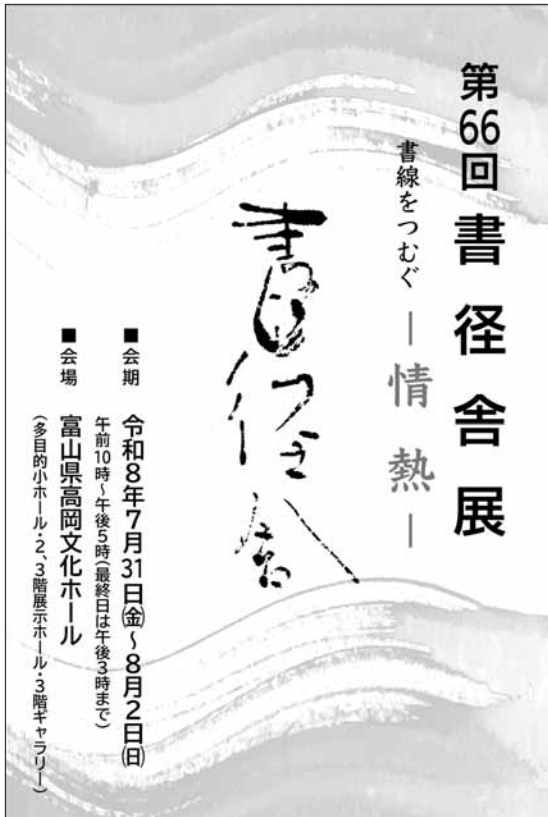
可^可免^免尔^尔具^具流^流
 わがためにくるあきにしもあ／らなくにむしのねきげばまづ／ぞかなしき／ものごと秋ぞかなしきしぐ／れつゝうつろひゆくをか
 支^支利^利毛^毛通^通盤^盤
 ぎ／りとおも入ば



あをやき^乎をかたい^不によりてう^九／ぐひす^華のぬ^不ふて^希ふかさはむめの／花^可がさ^性／まがね^不ふく^久きび
 のな^可かやまおびに／せるほ^曹そた^堂に^可がは^可のおと^於のさや^灘／けさ^散／このうたは承^じ和^わの御^おべ^{ほん}のき^支び
 のく^久／に^不のう^堂た^佐／みまさ^可かや^九くめ^可のさら^万や^佐まさ^可ら^可／に^不わ^可が^可な^着は^多た^志て^能じ^能よろ^万づ^万代^支まで^に／
 これは^能貝^{じょう}観^{かん}の御^おべ^{ほん}のみ^可まさ^能かの^堂／う^堂た

〈75%縮小〉(原寸にするには133%拡大)

〔注〕かな条幅部第三種の随書課題の範囲は、令和10年までの箇所に固定します。



第8回 みちのくの書人達展

- 会期 令和8年7月13日(月)
～18日(土)
午前10時～午後6時
(最終日は午後3時まで)
- 会場 東京交通会館
〒100-0006
東京都千代田区有楽町2-10-1
TEL 03-5962-9949
- 主催 伊呂波(いろは)書の会 (会長)坂本素雪
- 後援 (公財)書道芸術院・(一財)毎日書道会・毎日新聞社・日本詩文書作家協会・宮城野書人会



書道芸術 秋季特別昇段級試験受験希望の方へ

1. 「書道芸術」を購読されている個人、及び1ヶ月5部以下の団体（指導者の代表者申請も可）で昇段級試験受験希望の方は必ず期日までに「はがき」にて申し込みをしてください。（電話では受け付けておりません）
2. 団体に「書道芸術」を購読されていても、昇段級試験は個人で申請を希望する方も必ず期日までに「はがき」にて申し込みをしてください。

《はがき記入例》

***申し込み締切**

△8月20日(木)▽

書道芸術特別昇段級試験に申し込みます。

①住所

101-0011
東京都千代田区〇〇〇-1-1

②名前 鈴木 一郎

郵便はがき

85円切手

10100031

東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院
書道芸術編集部特別昇段級試験係
御中

東京都千代田区〇〇〇-1-1
鈴木 一郎

*5部以下の団体で申請する際は、
①の住所と②の名前は書類を受けとる代表者の方のみの記載で結構です。

「認定証」発行

「書道芸術」の各部門別に、師範の資格を取得されている方に対して「認定証」を発行しております。

次の要領で、申請してください。

申請料 1部門 1万円

申請書式

はがき大の用紙に次のように記載し、申請料とともに現金書留でお送りください。

認定証申請書

- 1 申請者名(姓号)
- 1 郵便番号
- 2 住所・電話番号
- 3 支部、支部名
- 4 申請部門(漢・かな・漢字条幅・かな条幅・ペン字)
- 5 師範資格取得年月日

認定証発行の年月日は師範資格取得年月日となります。
受付日より1ヵ月程度で認定証をお送りいたします。

書展

「墨のスペクトル―祈りの造形―
千葉紅雪展」を鑑賞して

岩上 郁子

会期 令和8年3月28日(土)

～4月1日(水)

会場 せんだいメディアテーク5F・C

3月31日、小雨の降る中、真下先生とともに、せんだいメディアテークで開催された千葉紅雪先生の個展を鑑賞いたしました。会場となった建物は伊藤豊雄氏設計の代表作として知られており、ガラス張りの外観と「チューブ」と呼ばれる構造体が印象的でした。現代的かつ近未来的な空間は、前衛書の世界観にふさわしい雰囲気醸し出していました。以前から書道芸術院展や

毎日書道展において、先生の、紙を染色したような淡墨の美しい作品に惹かれていたため、今回の個展を大変楽しみにしておりました。

会場には作品が年代順に展示されており、長々鋒による躍動感あふれる作品から、淡墨による柔らかな世界へと変遷していく様子を鑑賞することができました。特に、墨の濃淡や余白の美しさが強く印象に残りました。作品集のあとがきには、高校生のご子息を突然亡くされた悲しみや、東日本大震災を経て、「祈り」をテーマに制作を続けてこられた想いが綴られており、深く胸を打たれました。

後半には、般若心経と前衛書を融合させた大作のほか、球体や正四面体を用いた立体作品も展示されており、遊び心も感じられました。作品全体からは強い祈りの心が伝わり、人の想いが人の心を動かすということを改めて実感した個展でした。



お願い事項

※「書道芸術」

競書出品するためには、バーコード出品券が必要です。

○新規登録（無料）

○再発行申請（有料：500円分切手）紛失・

破損・支部・氏号変更

○登録内容変更（無料）住所・電話番号

変更・指導者名変更

各種申請用紙は、事務所までご請求ください。

指定形式以外の申し込みは、お受けできません。また、バーコード出品券に訂正されても変更できませんので、必ず手続きをして下さい。

△新刊案内▽

清秘蔵主人 早川忠文 著

「失われし文房四宝を求めて」

(天来書院・定価 3,850 円)

老舗墨筆店・精華堂の元営業部長として、中国文房四宝の輸入の現場で活躍された著者が、その実体験や知識を惜しみなく綴った一冊。過去の文献(巻末に68冊のリストあり)と豊富な実物の図版を紹介しながら、戦後から今に至る筆墨硯紙の実情を丁寧に叙述する。店頭には並ぶ商品の背景には、政治、経済、書道界の流行(現代書 directional 性)、生産者や職人の思いなどが複雑に絡み合っていることが了解される。本画宣「紅星牌」の価格の変化の理由や「純羊毫先寄せ捌筆」の誕生の経緯が興味深い。他にも、中国と日本の文房四宝の秘密がさりげなく散りばめられている。一読すれば、佳い硯で良い墨を磨ること、それが生活を豊かにする方法のひとつだと実感できるはずである。



競書違反作品の成績表掲載について

違反項目

1. 出品券なし → 作品のバーコード出品券未添付
2. 月別出品券違反 → バーコード出品券への月別出品券未添付
及び過去の月別出品券の誤添付(コピー不可)
3. 落款なし → 作品に落款なし(雅印のみ可)
4. 用紙違反 → 規定サイズ以外の用紙使用
※「ペン字」はハガキサイズ(14.8×10cm)を使用して下さい。
5. 課題違反 → 規定以外の課題、書体違反
6. 形式(縦・横)違反 → 指定と異なる形式
7. 段級未記入 → バーコード出品券の段級未記入

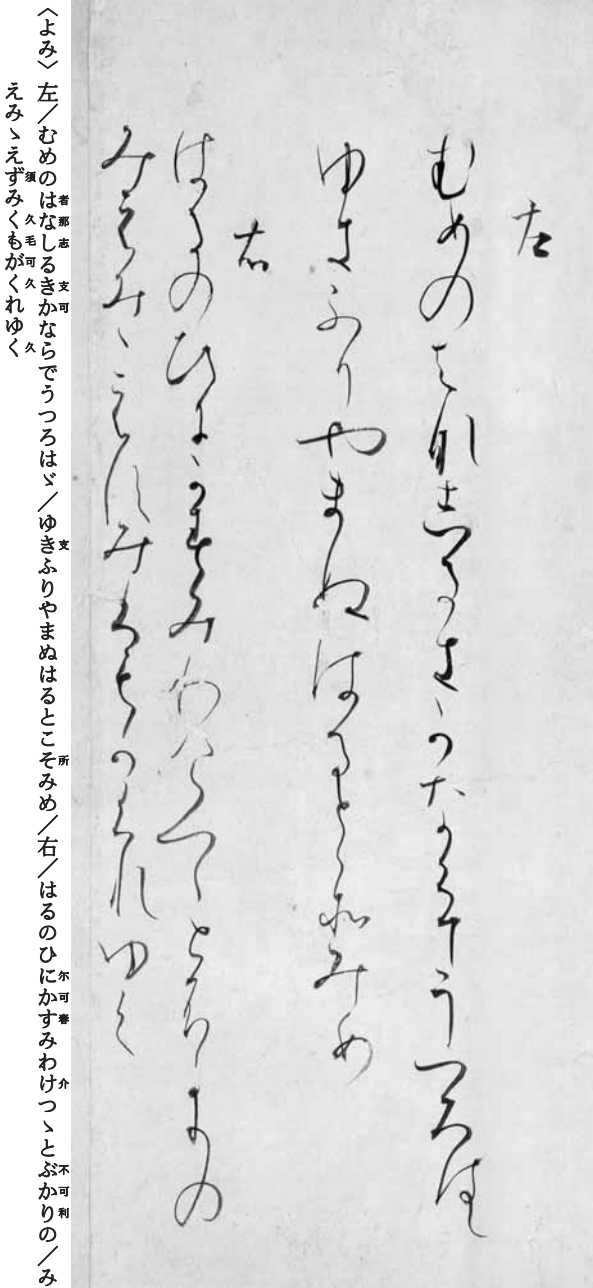
違反作品は返却致しませんので、ご了承下さい。

古筆鑑賞 268

古典鑑賞 494

寛平御時后宮歌合 (伝 宗尊親王筆) ①

礼器碑 (後漢156年) ①



(掲載図版・60%に縮小)



(掲載図版・55%に縮小)

極之日。魯相
河南京韓君。
追惟大古。華

特別昇段級試験

一、しめきり日 9月9日(水)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

- 漢字 一種、二種、三種
- かな 一種、二種
- 漢字条幅 一種、二種
- かな条幅 一種、二種、三種
- ペン字 一種、二種、三種
- かな、漢字条幅の三種は、春季募集となります。

二、応募資格

・一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種 現段級が特級〜10級、新規

・第二種 現段級が初段〜3級 (4〜10級の方は受験できない)

・第三種 現段級が準師範〜秀級 (優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、48〜53ページの写真掲載の中から〔指定文字数〕を臨書。

漢字部

半紙11たて長に使用

第一種 (1枚)

楷 臨書 高貞碑 (掲載部分から5文字を臨書)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 創作 暗飛螢自照 (杜甫) (暗きに飛ぶ螢は自ら照す)
行 臨書 集字聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

楷 臨書 雁塔聖教序 (掲載部分から細字24文字を臨書)
行 創作 竹涼 優三臥内
草 臨書 野月 満三庭 隅一 (杜甫) (竹涼臥内を履し野月庭隅に満つ)

かな部

半紙11たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付けも可。

・かな部創作・臨書はともに落款は印のみも可。

・かな・漢字の変更自由。

第一種 (臨 1枚)

臨書 高野切第三種 (半紙1枚に2首を臨書)
第二種 (臨・創 計2枚)
臨書 関戸本古今集 (半紙1枚に全てを臨書)

創作 (半紙1枚に全てを臨書) 音もせて思ひに燃ゆる蛭こそ鳴く虫よりもあはれなりけれ (源重之)

漢字条幅部

小画仙紙半切11たて長に使用

第一種 (1枚)

(楷または行) 創作 水宿鳥相呼 (杜甫) (水に宿る鳥は相呼ぶ)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 臨書 顔勤礼碑 (掲載部分から14文字を臨書)

行 創作 草木百年新雨露

車書 萬里 舊山川 (邵雍) (草木百年新雨露車書万里旧山川)

かな条幅部

創作は小画仙紙半切をたて長に使用(料紙可)

・かな条幅部の創作・臨書の落款は印のみも可。

・創作は、かな・漢字の変更自由。

第一種 (創 1枚) 創作 露涼し夜と別るる花のさま (石井露月)

第二種 (創 計2枚) 創作 松かげに鶏はらばへる響さかな (芥川龍之介) 創作 我が舟は比良の湊に漕ぎ泊てむ沖へな離りさ夜ふけにけり (高市黒人)

第三種 (臨・創 計3枚) 臨書 関戸本古今集 (半紙横1枚に全てを臨書) 創作 旅寝して香わるき草の蚊遣哉 (向井去来) 創作 君がため醸みし待酒安の野に独りや飲まむ友なしにして (大伴旅人)

ペン字部 11たて長に使用、黒インク使用。 はがきの大きさ(幅×10)白紙

夜熱依然として午熱に同じ門を開いて小立す月明の中竹深く樹密なり虫鳴く処時に微涼有り是れ風ならず 楊万里の詩 ○〇書

第一種 楷書 (1枚)

第二種 楷・行 (計2枚)

第三種 楷・行・草 (計3枚)

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。
・創作は○○書、臨書は○○臨と書く。
・ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いずれも印のみも可。

五、受験料

第一種 一、五〇〇円
第二種 三、〇〇〇円
第三種 四、五〇〇円
◇納入は昇段級試験用振替口座、または現金書留でお願いたします。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。
第一種は、最高秀級まで
第二種は、最高二段まで
第三種は、最高師範まで

七、応募手続

1 出品票はバーコード出品券を使用し、9月号(78号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)。
一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。
2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。
3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。
4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

受験申込み締切は8月20日(木) 申し込み先 〒101-0031 千代田区東神田1-16-7 東神田フアラザビル3階 公益財団法人 書道芸術院 書道芸術編集部特別昇段級試験係 応募書類は9月1日以後に整理発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみも可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3...
段位は漢数字 初、二、三...
で書いてください。

*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	段級位	用紙	書体・内容
字	初段以上	半紙	創(書体自由)作
漢	秀級以下	半紙	創作(楷書)
な	初段以上	半紙	創作
か	秀級以下	半紙	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創(書体自由)作
かな条幅	秀級以下	半切	創(書体自由)作
ペン字	10師級	はがきサイズ	書体自由

●かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

●掲載部分以外の箇所は不可。
●かな研究部門は料紙使用可。
●料紙貼りつけ可。

●自由部(段、級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代詩書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

△実用書部門・出品規定▽

- 用紙 半紙横 24.5×16.5 cm、B5コピー用紙 26×18.1 cmも可。
- 課題 掲載語句を書く。
- 小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

- 大作または小品のどちらかに1点出品する。
- 詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査委員の部について

- 「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査委員のみが出品できる部を設ける。
- バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
- 通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時の間にお願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数が1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は送料免除

令和八年五月二十五日印刷
令和八年六月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷洋子
発行人

データ処理 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957
振替00150141350058
http://www.jlins.co.jp/shogei/